

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ



日本への関心の高さを肌で感じた2年間 ~直接触れ合って初めてわかること~

熊本市経済観光局観光交流部観光政策課 主査 土山 朋子

フランス史上最高気温より熱い経験

去る6月中旬、例年より少し早い猛暑がフランスを襲い、最高気温が40度を超えたが、本土史上最高気温である46度(2019年6月末)には及ばなかったという記事を目にしました。その瞬間、私の脳裏に、2019年6月の「史上最高気温より熱い1日」が鮮明に甦りました。

その日、私は、フランス全土から1,000人を超えるアマチュアラグビーファンが聖地トゥールーズ近郊に集結するイベント「Rugby No Limit」にクレアパリ事務所として出展していたのです。

史上最高気温をものともせず、ラグビーファンは一日中、昼はビール片手にタッチラグビーやプールなどのアトラクション、夜は深夜までコンサートや仮装パーティーなどで盛り上がっていました。その様子に衝撃を受けつつも、負けじとパンフレットや映像、各地の日本酒などでラグビーワールドカップ2019日本大会(RWC2019)の開催自治体を中心とした日本の自治体をPR。ブースは、RWC2019での訪日に向け情報収集する人やいつか遠く離れた日本に行きたいと様々な角度から質問する人、初めての日本酒や泡盛をまるでワインをテイスティングするかのように楽しむ人たちが溢れかえっていました。その姿に、フランスの地方で日本の魅力を直接伝えられたという確かな手ごたえを感じました。



Rugby No Limit での出展の様子
(右から2人目が筆者)

この日ははじめ、クレアパリ事務所ですら自分史上最高の「熱く、かけがえのない経験」を数多くさせていただいたことに、日本に帰ってきた今、心から感謝しています。

日本への関心を来熊につなげる

フランスで過ごした2年間、日本、そして日本の文化への関心の高さを様々な場面で実感しました。欧州最大の日本文化の祭典「Japan Expo」に出展した際は、4日間で25万人を超える来場者が思い思いにアニメやゲームのキャラクターのコスプレに身を包み、会場を埋め尽くす様子を目の当たりにしました。私の住むアパートマン近くのフランス版マンガ喫茶はいつも多くのフランス人で賑わい、これほど多くの日本のマンガが仏語訳され、読まれているのかと驚かされたものです。

前述のトゥールーズ近郊のように、パリに比べると日本文化に触れる機会の少ないフランスの地方でも日本への興味・関心は高まっており、それは渴望にも近いものに思えました。南仏マルセイユ市での「マルセイユ秋祭り」への出展では、「試飲した日本酒はフランスでも買えるのか」との質問が相次ぎ、用意した自治体パンフレットは飛ぶようになりました。夏のバカンスを利用してホームステイしたトゥール市では、大学で肥後六花の研究をしている女性が熊本出身の私より饒舌に肥後六花の魅力を語ってくれました。また、町の小さな映画館で鑑賞した映画「日日是好日」の素晴らしさを語るホームステイ先のマダムに日本茶を淹れたところ大変喜ばれたことなど、数え上げるときりがありません。

現在、私は、観光需要回復期に向け本市の観光マーケティング戦略を策定する準備を進めています。クレアパリ事務所時代に肌で感じた日本への高い関心を、実際の来日、そして来熊につなげていきたいです。

プロフィール・ほか

- 現所属：熊本市経済観光局観光交流部観光政策課
- クレア在籍から現所属まで：
 - 2018年4月～2019年3月 交流支援部交流親善課
 - 2019年4月～2021年3月 クレアパリ事務所
 - 2021年4月～ 現職